

社会情勢に対応した活動によるさらなる発展を目指して

2023 - 2024 年度 (第 14 期)

日本きのご学会 会長 中 谷 誠



この度、第 14 期 (2023-2024 年度) の日本きのご学会 会長を拝命しました北海道きのこらボの中谷誠でございます。これまで本学会の発展にご尽力下さいました諸先輩の方がたに心より感謝申し上げます。力不足で至らぬ点多々あるかと存じますが、本学会の発展に少しでも貢献できればと思っております。会員皆様の御指導・御協力を御願い申し上げます。

第 12 期および第 13 期では松井徳光前会長 (武庫川女子大学) のもと副会長ならびに法人化実施、会則検討、将来構想の各委員会の委員長を務めさせていただきました。その間、定款の作成・規定の整備等を行ない、令和 4 年 4 月 1 日に念願の (一般社団法人) 日本きのご学会の登記を行うことが出来ました。しかしながら、この間、コロナウイルスのパンデミックにより大会の延期、「ワークショップ」、「若手の会」、「女史会」等の学会行事中止を余儀なくされました。

コロナ禍の状況において教育現場ではオンライン授業、また企業においても在宅勤務の普及等、社会情勢は大きく変化しました。本学会においても、昨年 2 月に延期された第 24 回大会 (米子) はオンラインで実施となりましたが、9 月の宇都宮大学での第 25 回大会は、全面的な対面で実施されました。今年度の近畿大学での第 26 回大会も対面のみでの開催が決定しており、大会と同時に「若手の会」・「女史会」の活動も再開され学会の活性化につながる事と期待しております。

「日本きのご学会」が一般社団法人となり、学会の活性化ならびに発展のためには、これまで以上に社会情勢に対応した運営ならびに活動が求められると考えております。そのためにも会員皆様の御指導・御協力・御理解の程をよろしくお願い申し上げます。

また、学会の発展・活性化の一つに学会誌の充実があげられます。会員の皆様の積極的な記事の投稿をお願い申し上げます。また、活性化する上で、若い世代のエネルギーが必要不可欠であると考えております。個人的な考えですが、若い特に旅費を持たない学生さんの発表を促すうえで、対面とオンラインのハイブリッド開催の試行を視野に入れております。会員皆様の御理解・御協力の程よろしくお願い申し上げます。あわせて若い世代の研究者、技術者、さらに企業の参加を促す視点から、技術奨励賞を新設致しましたが、未だに応募が無い状況にありますので、特に若い世代の会員の皆様からの多くの応募をお願い申し上げます。

法人化による新たなスタートを切りました。新型コロナウイルス感染症が第 5 類になり、以前の社会活動へと戻りはじめておりますが、まだまだ皆様におかれましても厳しい状況にあると存じます。しかしながら、日本きのご学会がさらなる発展を遂げるために、魅力ある学会を目指しております。実現するためには、これまでも増して会員皆様のご理解とご協力が必要不可欠でありますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。